

令和4年度

歴史講座 報告録



令和4年11月と12月に市保健文化センター3階ホールでマスク着用や手指消毒の徹底等の新型コロナウイルス対策を講じたうえで「歴史講座」を開催いたしました。両日とも多くの参加者から「面白かった」との声をいただきました。本紙では、ご参加いただけなかった方にも当日の雰囲気や少しでも味わっていただけるよう、講座の様子を簡単にご紹介いたします。

作成者：大網白里市図書室
作成日：令和5年3月1日(水)



11月27日(日)

「昭和20年8月15日に消えた零戦」



歴史の真実を明らかにする努力

終戦を告げる玉音放送が流れる約6時間前に茂原海軍航空基地（茂原飛行場）から飛び立ち敵機との交戦の末に5機の零式艦上戦闘機（通称・零戦）が撃墜されました。3機の墜落地点については既に特定に至っていましたが、残り2機については発見にいたらない状態が70年以上も続いていました。そんな中、久野先生らの調査団は、令和3年1月22日の夕方、ついに大多喜町の休耕田から零戦に搭載されていた20ミリ機関銃などを発掘します。この出来事は、テレビや新聞で大々的に取り上げられ、多くの反響を呼びました。これで調査も大きく進展するかと思われましたが、調査を進めて行くにつれて数々の課題が待ち受けていたそうです。

今回の講座は、本調査に関する最新の研究や現場でのエピソードなど大変貴重なお話を聞ける充実の2時間でした。歴史を後世に伝える意義なども教えていただきました。受講生からは「講座内容に関する感謝の言葉」や「これからの久野先生の調査に関する応援のメッセージ」などが多くありました。教養としてだけでなく、他にも大切な事が学ぶことができた今までに無い講義でした。久野先生ありがとうございました。



（睦沢町戦争史跡マップ）

睦沢町で作成した貴重な資料を見させていただきました！



講師：久野 一郎 先生
（元睦沢町立歴史民俗資料館館長）

12月3日(土)

「徳川家康の関東入国と房総」-豊臣期における房総の態様-



徳川 家康

豊臣政権
関東・東北方面担当



戦国期や豊臣政権下の徳川家康についても「江戸幕府を開いた初代将軍」という視点で逆算して語られがちですが、今回の柴先生の講義では、家康が関東に入国した意義や関東での働きについて豊臣政権下当時の情勢を一つの独立した時代として学ぶことができました。

豊臣政権下で家康が今までの領地を離れ江戸を拠点とすることにいった理由は「秀吉が家康の力を脅威に感じて遠方に追いやったんだ！」と左遷の様に思われる事も多いですが、実は家康の任された関東領国は、関東・東北方面を統治するために非常に重要な拠点であり、外交力と軍事力を期待されていたことだったそうです。また、実は家康と云えども未だ歴史上の出来事にどのように関わったか不明な点も多く、まだまだ調査研究が必要とのこと。こんなにも有名な武将ですら明らかとなっていない事が多いとは歴史とは本当に奥が深いですね。他にも柴先生には、当時の政治情勢など様々な事をわかりやすく教えていただきました。柴先生、ありがとうございました。



講師：柴 裕之 先生
（千葉県文書館職員）

